



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【五里霧中（ごりむちゅう）・・・】

日本の代表的な花の一つに桜があります。四月は桜前線が津軽海峡を北上し、五月の連休には松前町の桜も見ごろとなり、道内へも本格的な春の訪れを告げる季節です。当町でも山桜がピンク色に染まり鮮やかなコントラストを魅せ、道行く人の目を楽しませてくれます。特に、三岳地区の国道沿いから見える風景が私は好きです。

しかし、今年には新型コロナウイルス感染症が全世界へ爆発的な広がりを見せ、国内においても感染が拡大し、国による「緊急事態宣言」が五月三十一日まで延長され（令和2年5月22日現在）、ゴールデンウィークの見慣れた風景が一変し、日本全体が停止した状態となっております。

しかし、このような時でも桜は、何事もなかったように咲いて散っていきます。

私の好きな俳句の一つに、良寛禅師の「散る桜残る桜も 散る桜」があります。

表題の「五里霧中」とは、中国後漢の時代に張楷という儒学者が仙術を使い、五里四方に霧を起こしたという「後漢書」の故事からくる言葉です。

新型コロナウイルス感染症の今の状況は、出口や前後左右が全く見えないうちで、物事の判断がつかず方向性を見失い、どうして良いか迷うような場面が多く見受けられます。

今後の方針や見通しが立たない、立てられない状況の中で、ワクチンの開発が待たれるところであり、当たり前の日常に向けて、手探りの対策を余儀なくされております。

町では、緊急の対策として、四月二十四日の議会にて承認をいただき、福島町商工会によるプレミアム商品券の前倒しと併せて、飲食店を対象とした商品券（五百円）を上乗せ販売する予算を追加しております。

女だけの相撲大会や松前町の桜まつりが中止となり、人と物の動きが止まるなど、地元経済の影響が顕著に表れております。

町では更なる対策として、五月十四日に開催の議会において、第二弾の経済対策予算を上程し、国の経済支援対策予算と併せて、全町民を対象とした地域商品券（一人五千円）の配布に要する予算及び、事業者支援対策予算の承認をいただいております。

町の新型コロナウイルス感染症対策に関する予算の基本的なスタンスは、感染症の拡大による自粛要請などの影響により、町民の皆様の負担（精神的かつ経済的）が増加していること、地域経済が大きなダメージを受けていること、この二点を重点に予算を配分することとしており、緩やかに日常の生活を取り戻し、地域経済の循環を促してまいります。

町として新型コロナウイルス感染症から町民の命を守ることはもちろんですが、地域経済の命を守ることも行政の大切な役目であります。

国難ともいえるこの時にこそ、「自助、共助、公助」の助け合いが必要です。この難局を町民が一丸となって乗り切るためのご理解とご協力を、切にお願いいたします。

その先に、必ずや一筋の光が見えてくると信じて、ともにがんばりましょう！

まだまだ先の予測がつかず、五里にもわたる深い霧の中にいるようですが、桜の花のように何事にも動ずることなく、ただ日々花を咲かせることに努力し、町民の皆さまの安心・安全のために日々、全身全霊で奮闘してまいります。